

編集後記

◆今月号は1992年度の院長ヒアリングの主要テーマを中心に編集しました。小川所長と小玉企画室長の紹介にもあるように、院長ヒアリングは工業技術院の各研究所が、院長と院の幹部に対してそれぞれの研究所の中長期的研究戦略を表明する場です。その内容は今まで地質ニュースに掲載されたことがなかったのですが、読者の皆様に地質調査所の研究方針を知っていただくために、今後は毎年本誌で主要テーマを紹介していくつもりです。

◆院長ヒアリングでの地質調査所のキャッチフレーズの一つは「ダイナミックな地球システムの理解」でした。中尾海洋地質部長の「海洋における地質循環—その実態と機構の解明を目指して—」と小出環境地質部長の「マグマのダイナミックスの研究」は、そのような方向を目指して現在着々と研究計画の立案と予算化が進められているテーマです。所外の関連分野の研究者の皆様にも積極的なご支援・ご協力をお願いする次第です。

◆これに関連して地殻化学部の宇都氏は、「微量量<sup>40</sup>Ar-<sup>39</sup>Ar年代測定にむけて」を書いてもらいました。物質循環にせよマグマの研究にせよ、比較的若い試料でしかも微少部分での精密な年代測定を可能にすることが、質の高い研究成果を得るための必須条件となることでしょう。高額の実験機器の導入に対しては予算の壁が厚いのですが、なんとか早期に実現したいものです。

◆昨年4月にオタワで開かれた初めての世界地質調査所会議で、各国の地質調査所はその業務や研究成果のPRが下手であり、行政レベルに対しても市民レベルに対してもっと情報の提供・普及が必要なのが指摘されました。(地質ニュース1992年11月号参照)。これを受けて院長ヒアリングでも、地球科学情報の普及、とくにデジタル情報サービスの強化を主要テーマの一つとしました。鈴木地質情報センター長の「地質情報のデジタル化とその提供」はそのまとめです。なお昨年11月には、「CD-ROM出版と利用に関する研究会」と題した研究発表会が開催されましたので、いずれ本誌でその内容を特集し、当所における情報デジタル化により詳しい紹介をしようと思っています。

◆上記に関連して、現在地質情報センター・地質標本館・地質相談所・業務課広報係などの様々な組織で行われている当所の情報提供・普及の在り方を見直すための検討委員会が設置されました。地質ニュースだけでなく、地質調査所の情報提供業務一般について皆様のご意見をお寄せいただければ幸甚です。

◆当所の小川所長と米国地質調査所のベック所長の対談は、IGCの折に京都で行われました。工業技術院の広報誌「工業技術」1992年12月号に掲載されたものを、石原院長はじめ関係者のご厚意により転載させていただきました。

(編集委員長 佐藤壮郎 記)

地質ニュース編集委員会

委員長：佐藤壮郎

副委員長：佐藤興平・磯部一洋

幹事：宮崎光旗・奥村公男

委員：柴田賢・滝沢文教・岡村行信・村岡洋文・渡部芳夫・井内美郎・金沢康夫・佐藤岱生

事務局：総務部業務課広報係（山口秀樹・清水真寿美）

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

地質ニュース

第461号 1993年1月号  
定価 ¥ 770 千実費

1993年1月1日 発行

編集

発行人

発行所

工業技術院地質調査所  
林久雄  
株式会社実業公報社  
東京都千代田区九段南4の2の12  
〒102

Tel. (03)3265-0951 (代表)

振替口座 東京1-32466

麹町局私書箱第21号

印刷

小宮山印刷工業株式会社

©1993 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。